

名古屋市と陸前高田市との市民交流 ～郷土芸能の相互披露～



名古屋市と陸前高田市は平成26年10月28日に友好都市協定を締結し、両市間で様々な交流の取り組みが実施されています。その取り組みの一環として、市民文化の交流を図るため、平成27年度から、両市の催事において郷土芸能の相互披露を行ってきました。今年度は、陸前高田市産業まつりにて名古屋市の芸能団体による郷土芸能披露を予定していましたが、新型コロナウイルス感染拡大により、産業まつりが中止となってしまいました。これまでどおりの市民交流は難しい状況ではありますが、交流を途切れさせないために、陸前高田市とアバッセたかたの皆様にご協力いただき、今回のパネル展示の機会を設けさせていただきました。過去5年間で実施された郷土芸能の相互披露の交流について、ぜひご覧ください。

平成27年度 槻沢芸能保存会

(陸前高田市)

平成27年10月17日(土)、10月18日(日) 名古屋まつりにて披露



槻沢念仏鎧剣舞は1795年(寛永7年)地区の守り神として不動明王尊像を奉納した際に演じた平泉系念仏剣舞が起源です。一旦途絶えたものの、明治の中頃から約120年、衣装に鎧をまとった武士スタイルの念仏剣舞として踊り継がれてきました。勇ましく激しく踊る阿修羅踊系の剣舞に分類され、清滝神社の例祭と旧盆に舞いが披露されます。

平成28年度 玉琴子Dファイズ

(名古屋市)

平成28年10月30日(日) 陸前高田市産業まつりにて披露



「玉琴子Dファイズ」は平成20年に名古屋市御園座での演奏を依頼されたのを契機に結成され、名古屋市で活動する琴伝流大正琴の4人組のグループです。結成後、大正琴演奏会の最高峰とされる「琴伝流コンサート」に出場するなどの実績を持ちます。

平成28年度の産業まつりでは、陸前高田市で活動している同じ流派の「琴石会」と共演を果たしました。

平成29年度 金成百姓踊り

(陸前高田市)

平成30年3月24日(土) 名古屋城春まつりにて披露



昭和46年頃、金成地区内でコミュニティの枠を確保するため、笛や太鼓に合わせて昭和初期の農作業を再現したのが、金成百姓踊りの始まりです。金色に実った稲を刈り取り、足踏みの脱穀機を使っの脱穀の描写は百姓踊りの最大の見せ場となります。今は忘れ失われつつある、古き良き時代の農作業を地区民で踊り、昔の人々の生き方に思いを馳せながら、伝承活動を引き継いでいます。

平成30年度 狂言共同社

(名古屋市)

平成30年11月3日(土) 陸前高田市産業まつりにて披露



「共同狂言社」は尾張・徳川藩のお抱え狂言師であった和泉流山脇派の狂言を継承・発展させるために明治24年に設立され、名古屋を拠点に活動する狂言師団体です。名古屋市能楽堂や豊田市能楽堂など地元能楽堂で活動するほか、関東・関西など各地の舞台にも出演しています。

令和元年度 赤磯太鼓-ARATA

(陸前高田市)

令和元年10月19日(土) ぼうさいこくたい2019、名古屋まつりにて披露



「赤磯太鼓」は平成3年、地域の若者を中心に和太鼓の普及を目指し、発足しました。平成27年、黒崎神社例大祭での新たな曲目、新たなメンバーでの演奏を機に名称を「ARATA」とし、心機一転、陸前高田に新しい風を吹き込む思いを込めて、心に響く一打、魂を込めて精力的に各地で演奏を続けています。